

平成29年度 第2回白根巨摩中学校自己評価書(後期)

平成30年1月11日作成

学校長： 長澤 光

記述者氏名：教頭 金子 浩

学校教育目標

『やる気をもった人間性豊かな生徒の育成』

- (1) 強い体と心をつくる。(心身の健康)
- (2) すなおに見聞きし、考えて行動する。(考えて行動)
- (3) 美しいものを愛し、自分を創り出す喜びを知る。(創り出す喜び)
- (4) 働くことを好み、力を合わせてがんばりぬく。(やりぬく力)

学校経営方針

教育基本法、学校教育法、及び学習指導要領等の精神に則り、県教育委員会、市教育委員会の重点施策に従い、本校の伝統、時代の要請、生徒や地域の実態を十分考慮し、次に示す事項を基本方針として創意工夫を生かした特色ある学校づくりを目指す。

- (1) 各教科・領域における基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、今日的課題に対応し、たくましく生きることのできる力を育てる教育の充実に努める。
- (2) 自分に誇りを持ち、自己実現に向けて努力することの大切さや、仲間との交流や自然と共生することの大切さを理解させる心の教育の充実に努める。
- (3) 危機意識を高め、自己管理能力を育てる健康・安全教育の推進に努める。
- (4) 地域の教育力を積極的に活用し、学校や郷土を愛し、誇りに思う生徒の育成に努めるとともに家庭や地域との連携を深め、信頼感に支えられた学校づくりの推進に努める。
- (5) 教師として自らの研修を計画的・組織的に進め、専門職としての教職員一人ひとりの資質や力量の向上を図る中で全職員の個性や創意を生かした活力ある学校運営の推進に努める。

I 全体評価

※平成20年度第1回学校関係者評価委員会の、A・Bの肯定的意見の割合の合計を目安にしたのでは、A・Bの重みの違いが結果に出ないというご指摘をいただき、平成20年度の第2回はA：5点、B：4点、C：2点、D：1点と換算し平均4.5を目標と考えた。今年度も引き続きこの指標を使い学校評価を考えていきたい。なお、生徒アンケート及び保護者アンケートについては平均4.0を指標とした。

一昨年度から、「本年度の重点項目」を設定するなど、アンケート項目の精選を行なった。今年度、「本年度の重点項目」以外のアンケート項目は変更していないので、今年度第1回、前年度第2回のものと比較して考察・評価を行った。

全19項目の平均得点は達成の目安とした4.5を上回り、後期も高い達成度であった。29年度前期及び前年度の平均得点も4.7以上を示しており、達成度の点では高水準を維持している。しかし、今年度の重点目標の一つである「道徳教育」の項目については、目標である4.5に達しなかった。

また、得点分布に関しては次のようになった。

4.5以上	18項目	(18項目)
4.4以上4.5未満	0項目	(0項目)
4.3以上4.4未満	0項目	(0項目)
4.2以上4.3未満	0項目	(0項目)
4.1以上4.2未満	1項目	(0項目)
4.0以上4.1未満	0項目	(1項目) ※()内はH29年度第1回

今回の全平均は、昨年度第2回目の結果を0.1上回る4.9であった。道徳教育を除いた18の項目で、目標とした4.5以上を得たということは、自分たちの実践が昨年同様、高い水準を保っていると評価しているといえる。

前期の自己評価で若干の課題点とした「教科指導(授業改善)」と「特別活動(部活動)」の項目については、後期の重点項目として取り組んだ結果、それぞれ0.2ポイントずつ上昇した。「授業改善」については、全国学力学習状況調査や県の学力把握調査の結果分析をもとに、校内研究会での研究授業や一人一実践などを通して授業の改善に取り組んできた。また、「部活動」については、夏季休業中から2学期にかけて行われた各種大会や大会への取組を通して、生徒の主体性を引き出す活動を計画的に行うとともに、教職員も積極的に指導にあたった成果の表れであるといえる。

しかし、今年度の重点目標の一つである「道徳教育」の項目については、平均得点は4.1であり、前期より0.1上昇したものの、目標である4.5には達しなかった。道徳の時間の確保が十分でなかったこと、教科化に向けての内容の充実が不十分であることなどが主な要因であると考えられる。

また、保護者アンケートから、保護者の学校への満足度は81.2%(昨年度80.6%)であり、80%以上の満足度を感じている保護者の割合も76.2%(昨年度75.7%)と、昨年度より若干上昇しているが、保護者から学校への希望として最上位となっている学力の向上と関わり、「わかる授業」「授業改善」「家庭学習」への取り組みについては、今後も継続して行っていかなければならない。

II 各領域ごとの評価

1 学校運営	対 応
<p>◇領域平均は4.8で、第1回より0.2ポイント高い結果となった。項目別では、6項目中5項目が上昇、1項目は同じであった。</p> <p>◇前期で課題としてあげた「道徳教育」については、前期より0.1ポイント上昇したものの、平均得点4.1であった。2学期には校内研究会で指導主事を招聘し、指導・助言をいただく中で、「考え議論する道徳」についての研究を深めた。また、地域ふれあい道徳では、すべての学級が道徳の授業を公開した。しかしながら、道徳の時間を確保するという量的な面と、教材づくりや授業内容といった質的な面の両方においてまだまだ十分ではないと考えている職員が多い。</p> <p>◇同じく前期で課題としてあげた「時間を守る活動」については、生徒会本部や各学年生徒会が、2学期を通して下校時間やチャイム着席に取り組んだ。また、前期の反省を受けて、教職員の時間に対する意識も向上することができた。</p> <p>◇今年度の重点目標の一つである「基礎学力の定着」については、平均得点4.9で、前期の4.7から0.2ポイント上昇した。しかしながら、後述する教科指導における「言語活動の充実と授業改善」の項目と合わせて、学力向上に対する生徒や保護者の願いにさらに応えていく必要がある。</p> <p>◇保護者アンケートの項目1「本校の基本方針である教科、特別活動、合唱活動、部活動の4分野を均衡させた教育活動に賛成である」については、平均点4.7、また、項目13「本校は保護者・地域に開かれた学校となっている」については、平均点4.6であった。今年度も、授業参観、合唱コンクール（発表会）、学園祭などの学校行事に、多くの保護者の来校があった。今後も行事等の学校開放、定期的な学級・学年・保健・図書等の便り発行や白根ケーブルテレビによる行事放送などによる情報発信を進め、保護者との相互コミュニケーションの機会を多くとっていきたい。</p>	<p>◎2学期は、日々の授業に加え、学園祭・新人戦・強歩大会・合唱コンクールなどの行事が続く、密度の濃い教育活動が進められた。参観される保護者や地域の方も増え、本校の基本方針が皆様から支持されていると感じている。今後も教職員の共通理解と協力体制を確立していく中で、取組を充実していく。</p> <p>◎道徳教育については、今後も道徳の時間の確保を第一に取り組む。また、2学期に引き続き3学期も校内研究会や学年の道徳教育担当を中心に、授業内容の充実を図り、考え議論する道徳を目指す。</p> <p>◎今後も各種便りやHP、白根CATVの放送等を通して、学校の様子を保護者や地域に発信し、生徒の健全育成のために連携を図っていく。本校PTAの子ども育成スローガン「笑顔で声かけて育てよう。あの子どもこの子ども白根の子」の気持ちで、家庭をはじめとして、地域の方々とも連携を図る中で、地域の学校としての役割が果たせるよう努力していく。</p>
2 教科指導	対 応
<p>◇領域平均は4.8で、第1回から0.1ポイント上昇した。項目別では、3項目中2項目が上昇、1項目が同じであった。</p> <p>◇前期で課題として取り上げた「言語活動の充実・授業改善」については、前期よりも0.2ポイントの上昇がみられた。1学期に引き続き2学期も校内研究会や人事評価のための授業観察、一人一実践、山梨スタンダード等の取組を通して、言語活動の充実等を踏まえた指導法の改善が進んでいると捉えることができる。</p> <p>◇「家庭学習の手立てを行っている」については、平均4.9で前期に比べ0.2ポイント上昇した。2学期も週末課題への取り組みに重点を置き、全生徒が提出できるように、個別対応をしながら、粘り強く指導を継続してきた。また、「学びの甲斐善八か条」をもとに、計画的に予習や復習などの家庭学習が促進されるような取組や振り返りを行っている。生徒アンケート16「宿題の他にも家庭学習をしていますか」が、1学期に比べわずかではあるが上昇していることから、取り組みが成果となって表れているといえる。</p> <p>◇保護者アンケート7「本校の学力向上への取り組みは成果をあげている」については、昨年度より0.2ポイント上昇し、4.0に達したものの、保護者アンケートの中では肯定的評価が一番低い項目である。保護者の「重点化してほしい教育活動」第1位が学力の向上であるということとも合わせて、今後も授業と家庭学習の充実に取り組み、保護者の願いに応えていく必要がある。</p>	<p>◎校内研究の主題「生徒が主体的に表現しあう授業の創造」に基づいて、全教職員がさらなる授業改善を図る。山梨スタンダードの着実な実施や一人一実践の取り組み、人事評価のための授業提案などを通して、各個人の授業力の向上を図っていく。</p> <p>◎授業形態を工夫・改善し、言語活動の充実を授業の基本に据え、学ぶ意欲が喚起されるような課題解決的な学習を意図的・計画的に行うことにより、思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。</p> <p>◎学習内容の不十分な理解を解消するために、授業の中で意図的に振り返り学習を行ったり、定期テスト前の放課後の時間を活用して補充発展の学習を行ったりする。また、生徒一人ひとりの学習ニーズにきめ細かく対応していく。</p> <p>◎今後も週末課題への取り組みに引き続き重点を置き、課題設定の工夫や個に応じた指導を進める。また、「学びの甲斐善八か条」をもとに、計画的に予習や復習などの家庭学習が促進されるような取組や振り返りをさらに進めていく。</p>

3 生徒指導	対 応
<p>◇領域平均は5.0で、第1回の結果と同様に高い数値となっている。項目別では、2項目中1項目が上昇、1項目が同じであった。</p> <p>◇8「問題行動等の早期発見・早期対応に努めている」9「相談に積極的に応じている」の両項目で100%の肯定率を得ている。これは担任・学年・生徒指導担当等を中心に職員の共通理解のもと、学年の枠を超えて全体で指導が行われている結果とみることができる。白根巨摩中学校の「いじめに対する基本方針」のもと、年5回のアンケート調査、個人面談等が生徒指導主事より提案され、実施されてきている。アンケート調査により上がってきた生徒からの訴えについては、担任がどう対応したのかを記録し、学年主任・生徒指導主事・管理職の順に目を通して。不明な点や対応が不十分な点については、担任に戻すという流れが定着している。また、課題が生じた場合には、学年会議・生徒指導部会・企画会議・職員会議を通して、組織的に対応してきている。</p> <p>◇生徒アンケートの「生活の基本」4項目については、すべての項目で98%以上の生徒が肯定的な評価を付けている。本校が推進している「4つのこだわり～挨拶・時間・清掃・服装」が、生徒にも意識付けられている結果であると捉えることができる。</p> <p>◇保護者アンケート12「本校の生徒は、人間性豊かで思いやりや正義感があり、全体的に落ち着きのある学校生活を送っている」については平均4.4で、昨年より0.3ポイント上昇した。保護者からの理解がさらに得られるよう、連携を強めていく。</p>	<p>◎今後もアンケート調査、個人面談等を継続し、生徒の日常の変化を注視していく。また積極的にスクールカウンセラーを活用し、相談できる体制をとっていく。</p> <p>◎思春期特有の悩みや進路選択での戸惑いも予想されるため、計画的な個人面接の継続実施はもとより、今後はこれまで以上に一人ひとりの生徒への声掛けや一対一で向き合う時間を見出す等、より細かなコミュニケーションをとっていく。今後も生徒と真摯に向き合い寄り添う中で、保護者の思いや生徒の心の声に耳を傾ける努力をしていく。</p> <p>◎教職員が生徒と向き合う時間が十分に確保できるよう、多忙化改善の取組を全校体制の中で行う。</p>
4 特別活動	対 応
<p>◇領域平均は4.9で、今年度第1回の4.7から0.2ポイント上昇した。項目別では、4項目中3項目が上昇し、1項目は同じであった。</p> <p>◇毎回、非常に高い平均であり、教職員の行事を通して生徒を育てる意識が高いことを表している。2学期は学園祭・強歩大会・合唱コンクールなど、生徒が主体となり取組を充実させた行事が多くあった。また、部活動も2年生にバトンが引き継がれたことで、下級生の意識の変容につながっている。</p> <p>◇保護者アンケート9「特別活動等の教育的効果について」は平均点4.6、10の「合唱活動」については4.7、また、部活動に関しても4.6と高い評価が出され、学校行事や生徒会活動等の教育的効果を理解し、参観等によって見守ってくれている状況を反映している。白根巨摩中の特色として基幹となるこれらの活動は、保護者からも肯定的にとらえられており、生徒の成長に欠かせないものであることをご理解いただいているといえる。</p> <p>◇特別活動に関する生徒アンケートはすべての項目において前回同様の高い評価になった。行事・合唱の項目において平均4.8以上の肯定評価であり、97%以上の生徒が意欲的に取り組み、達成感や満足感を得たことが分かる。</p>	<p>◎本校の四つの取り組みの一つである合唱活動や、演劇などの表現活動を大切にしながら、今後も取組の目標を明確にし、活動を工夫することで成果をあげていく。</p> <p>◎毎年強歩大会は、安全な実施のために保護者はもちろん、警察や多くの交通安全協会の方にご協力いただいている。昨年度より、警察や安協の方々による2日間の協力が難しいということで、延期なしの1日間で実施している。今年度は雨の中での実施となってしまったが、今後も実施時期を検討する中で、生徒の励みとなるような応援や支援・協力を引き続きお願いする努力をしていきたい。</p> <p>◎来年度は放課後に部活動や会議を行わない「きずなの日」を月2回とし、休日の部活動年間活動日を69日以下にすることで、部活動の負担軽減計画を推進するとともに、生徒と向き合う時間の確保に努める。</p>
5 健康安全 6 信頼される学校	対 応
<p>◇「健康安全」と「信頼される学校」の領域平均得点は、ともに5.0であり、目標とする4.5を上回っている。また、肯定評価も全ての項目において100%となっている。</p> <p>◇毎月の安全点検により、校舎内外の危険箇所や破損箇所への対応を行っている。</p> <p>◇今年度「警報発令時の対応」について見直しを行い、Jアラート配信時の対応を追加したうえで、保護者に周知した。</p> <p>◇毎朝学級担任による健康観察を行い、養護教諭との連携も密に行っている。</p> <p>◇教師としての自覚については、日頃より十分に注意を払い対応している。</p>	<p>◎今後も施設・設備の美化に努めるとともに、安全管理に注意をはらっていく。</p> <p>◎学校安全マニュアルや危機管理マニュアルを見直し、改善の取り組みを進める。</p> <p>◎系統的な防災教育を充実させ、自分の身を自分で守る意識を生徒に醸成していく。</p> <p>◎定期的に服務規律について注意を促し、お互いに声をかけあうことができる良好な教職員の関係を築いていく。</p>